

策定のポイント

【視 点】VUCA、人口減少・少子高齢化、多様化…激変する時代を切り拓き、「新しい価値」や「一人ひとりの幸福とよりよい社会」を創造する力を育むため、これまでの長も活かして長野県教育を“アップデート”

【目指す姿】一律一律の教育から「個別最適な学び」への転換と「協働的な学び」の推進による多様な他者との対話と協働 ➡ “個人と社会のウェルビーイングの実現”

社会背景・情勢	現状と課題	今後の方向性	目指す姿	重点政策案
<p>VUCA (変動性・不確実性・複雑性・曖昧性) 時代</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍による学校生活の変化 (臨時休業・分散登校等) ・地球温暖化による気象災害の多発 ・国際情勢の不安定化(ウクライナ等) ・Society5.0時代の到来 (一人一台タブレット端末整備等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・知識技能の詰め込みに偏重した教育 ・時代を創造する資質能力の育成が必要 ・社会性、コミュニケーション能力の低下 	<p>【学校】同一教室、同一内容、同一進度の学校教育における学び方の限界</p> <p>【教職員】教職員の負担過多・学校現場の疲弊</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたって主体的に学び続け探究し続ける力の育成 [学校]探究を中核とした学校づくり [教職員]共同探究者 	<p>一人ひとりの「好き」や「楽しい」をとことん追求できる「探究県」長野の学び</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の魅力化・特色化 (学校長の裁量拡充、生徒による科目デザイン) ・教職員の資質向上 (私学等との連携プログラム) ・教員の働き方改革 (欠員対策、外部人材活用、パート人材拡充、業務のDX化、部活動地域移行) ・高校改革の推進 (再編・整備、学びの改革、長野県スクールデザインプロジェクトによる学習空間整備) ・信州教育の魅力発信 (教員志願者確保、生徒の全国募集)
<p>人口減少・少子高齢化時代</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども数の減少(0歳~18歳) H29:345,616人→R4:309,862人(Δ35,754人) ・教員数の減少(H29→R4) 小中:11,801人→11,607人、高:3,776人→3,532人 ・学校数の減少(H29→R4) 小:366→355 中:187→185 ・教員志願者数の減少(H29→R4):2,551人→1,949人 ・平均寿命の伸長(H29→R2) 男性:82.24→82.65、女性:88.17→88.95 ・高齢化率の上昇(H29→R2):31.1%→32.8% ・過疎地域割合の増加(H27→R3):48.1%→51.9% 	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係の固定化 ・リアルな体験活動の減少 ・生涯にわたって誰もが活躍できる場の不足 ・人口減少地域における学びの質の維持 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な他者との対話と協働 [学校]地域の拠点としての学校、民間等様々なリソースを活用 [教職員]専門性をもった多様な教職員集団 	<p>個人と社会のウェルビーイングの実現</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・共学共創による地域づくり (長野県スクールデザインプロジェクトによる共創空間の創出、共学共創プラットフォームの構築、地域連携コーディネーター設置、部活動地域移行) ・生涯を通じて学ぶことができる環境づくり (高校の地域拠点化、社会教育施設のデジタル基盤強化)
<p>多様性の時代</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こどもの多様化(R4.8 内閣府資料) 小学校35人学級:発達障害7.7%、IQ130以上2.3%、不登校(傾向含む)12.8% ・LGBTQ対応の広がり(トイレ、制服等) ・不登校児童生徒の増加(小中学校、1,000人当) H29:15.3人→R2:23.7人 ・通級等指導教室利用児童数(小学校)の増加 H29:495人→R2:747人 ・小中学校の就学援助受給率の上昇 H29:11.20%→R2:11.37% ・通信制高校在籍生徒数の増加 H29:4,306人→R4:7,048人 	<ul style="list-style-type: none"> ・貧困等による学びの機会の格差 ・学校が様々な分野・機能を抱え込みすぎ ・学校以外の選択をした子どもの学びの場の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの安全・権利の保障 ・分野・機能ごとに多層構造・役割分担化 ・デジタルの力も最大限活用した個別最適な学習環境の創出 	<p>一人の子どもも取り残されない「学びの環境をつくる」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・遠隔教育の充実 (不登校児童生徒オンライン学習支援、義務教育通信学校設置(国へ提言)、遠隔教育特例校制度要件緩和(国へ提言)) ・特別支援教育の充実 (通級指導教室増設、副学籍校の拡充) ・福祉分野との連携 (スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカー体制強化、貧困支援としての学校活用) ・多様な学びの場の充実連携 (夜間中学・不登校特例校設置検討、校内サポートルーム、フリースクール環境整備連携) ・一人ひとりの特性に応じた学びの追求 (特性を把握するアセスメント方法、デジタルツール活用研究、応用行動分析を活用した支援の充実)

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実